

12月には、小中ともに個別懇談会があります。中学3年生は進路決定の大事な時で、特に緊張しますが、これまで築いてきた関係を壊すことにならないよう、言葉遣いには十分気を付けましょう。保護者が来校し、直接話ができる懇談会は、どの学年でも貴重です。保護者の方が、「担任の先生はうちの子を温かく見てくれている」と感じれば、学級づくりの協力者となります。



<小学校>

もっとつながる 保護者懇談会！！

「ほら！見てください！〇〇さんてすごいでしょ！」をたくさん用意

保護者も知っていて納得するすごいところ、保護者も知らなかった新しいすごいところを、一緒に共有できる、材料をたくさん用意しましょう。見て、感じて、聞いて、納得してもらおうチャンスです。

「いい子ですね。このままではもったいない！」も用意

この子がもっとよくなるために、ここがこうなるとよいという課題も用意します。「いい子ですね。このままでは、もったいない。」と切り出して、学校が取り組むことや、保護者が家庭で取り組むこと等を、具体的に相談しましょう。いい子をもっとよい子にという思いの共有が効果的です。

帰ったら子どもを抱きしめたいくなるような、先生と話してよかったと思うような懇談会に！！

互いの学級経営に学び合う

他クラスの子どもの姿は、どのような日々の積み重ねによって成立しているのか、互いの指導に取り入れられそうなよさは何かなどを学び合う機会をつくってみませんか？

(例) 朝の会、帰りの会などに交替で他のクラスに入り、教室環境や子どもたちの活動の姿を観察します。気付いたことは日常的に報告し合い、大切なことは学年会や職員会議で話題にします。



A先生

B先生が困っていることは？いつでも遠慮せず学級を見に来てください。

子どもの自主性を高めるA先生の指導法を知りたいです。

A先生は、いいところ探しを通してお互いを認め合うことで、子どもの自主性を高めているんだな。



B先生

<中学校>

保護者に信頼される聴き方

1 保護者の思いを受け止める

保護者懇談会では、学校での様子、学習状況のデータ等を分かりやすく説明。その上で、保護者の話をしっかり聴くことが大切です。

[保護者の話を聴くときのポイント]

- ◇ ゆっくりとうなずきながら聴く。
- ◇ 話の腰を折らない。最後まで聴く。

2 視点をもって聴く

例えば、次のような視点で聴き分けて応じることが大切です。

- 我が子の成長について
[心配していること、困っていること、願いや期待 など]
- 学校(全体、学年・学級、部活)の指導について
[悩み、疑問、要望、感謝 など]
- 家庭の状況について
[親子関係、家庭の子育て方法 など]

他のクラスから学んでいますか？

隣のクラスから聞こえてくる先生の声や、廊下ですれ違う他クラスの生徒の表情、校内の戸締まり確認で巡る放課後の教室等から、学級づくりのよさに気付かされることが多くあります。

- ・ 朝や帰りの学活の内容、運営方法
- ・ 給食配膳の段取り
- ・ 教室内の掲示や整頓方法
- ・ 子どもの作品の展示方法
- ・ 係や班活動の仕方
- ・ 先生の生徒への話し方、接し方
- ・ 教室での仕事のやりくり、時間の使い方



このような視点から他のクラスを見て、自分の学級経営に取り入れてみてはどうでしょうか。